

# 研究員 の眼

## 年末ジャンボ 今年はどう狙う？

3つの高額当せんを踏まえて、くじの買い方を考えてみよう

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也  
(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

今年も、気がつけばあとひと月あまり。来月には師走となり、なにかと慌ただしい年の瀬を迎える。そんななか、11月20日(水)には恒例の年末ジャンボ宝くじの発売が始まる。よかったことやわるかったこと、楽しかったことやつらかったことなど、いろいろあった一年を振り返りつつ、来年に向けて新しい夢や希望を描く — そんな精神の栄養をもたらす宝くじとして、その意義は高まっているといえるだろう。

今年も最高当せん金は1等前後賞合わせて10億円と超高額だ。現在行われている5つのジャンボ宝くじのなかで、この10億円という最高当せん金は、とび抜けて高い。

現在行われているくじの当せん金の最高額は、スポーツ振興くじ(正式名称は、スポーツ振興投票)のメガビッグでキャリーオーバーがある場合の1等最高12億円だ。だが、キャリーオーバーがない場合には、最高7億円にとどまる。年末ジャンボ宝くじの最高当せん金10億円は、キャリーオーバーがない場合のメガビッグの1等当せん金を上回っている。年末ジャンボ宝くじの発売により、まさに一攫千金のチャンスがおとずれることになる。

それでは、年末ジャンボ宝くじをどう狙うべきか、考えてみることにしよう。

### ◇「年末ジャンボ」と「年末ジャンボミニ」とも、昨年のものから変更はない

年末ジャンボ宝くじは、「年末ジャンボ」と「年末ジャンボミニ」の2本立てで発売される。まず、最初に注意しておきたいのは、「1等前後賞合わせて10億円」のうたい文句で販売されるのは、年末ジャンボということだ。これに対して、年末ジャンボミニの当せん金の最高額は、1等前後賞合わせて5000万円となっている。

今回の宝くじでは、年末ジャンボが“第 1031 回”、年末ジャンボミニが“第 1032 回”の全国自治宝くじとして位置づけられている。“1031”、“1032”の数字が、くじの券面の右上側に、緑色の太字で表示されているので、購入の際はよく確認するようにしたい。

この後、今年のかくじの内容について細かくみていくが、あらかじめ申し上げておくべきことがある。

実は、「年末ジャンボ、年末ジャンボミニとも、昨年のものから基本的に変更はない」ということだ。

これは昨年の変更により、年末ジャンボ宝くじとして、一種の完成形に達したということなのかもしれない。

### ◇ ジャンボは、10 億円の超高額当せんとともに 1000 万円や 100 万円の高額当せんも魅力

それでは、まず、年末ジャンボからくじの内容をみてみよう。

#### 年末ジャンボ

(円)

	当せん金	当せん確率	1枚300円に対する 当せん金の期待値
1等	700,000,000	0.000005%	35
1等の前後賞	150,000,000	0.00001%	15
1等の組違い賞	100,000	0.000995%	0.995
2等	10,000,000	0.00004%	4
3等	1,000,000	0.002%	20
4等	50,000	0.01%	5
5等	10,000	0.1%	10
6等	3,000	1%	30
7等	300	10%	30
合計			149.995

昨年、当せん金 1000 万円の 2 等と当せん金 100 万円の 3 等の当せん確率が大幅に引き上げられた。一方、当せん金 1 万円の 5 等の当せん確率は引き下げられた。これらにより組み替えが行われ、1000 万円や 100 万円の高額当せんに大きくシフトしたわけだ。

それでは、100 万円以上の高額当せんを当てるには、どれだけくじを買ったらよいか。計算してみると、100 万円以上の賞金が当たる確率は 0.002055%なので、この数字の逆数をとることにより、平均的には、4 万 8662 枚のかくじを買えば 100 万円以上の賞金が 1 本当せんするという結果になる。

これだけのくじを買くと、100万円未満の複数の当せんも期待できる。具体的には、4等4本、5等48本、6等486本、7等4866本の当せんが期待できる。こうした4等から7等の当せんにより、平均的に、当せん金359万7800円が受け取れる。100万円以上の賞の当せんと合わせて、459万7800円以上の当せん金の受け取りが期待できることになる。

ただし、1枚300円のくじを4万8662枚買うためには、1459万8600円が必要となる。たとえ3等100万円が1本当せんして459万7800円の当せん金を受け取ったとしても、1000万円以上もの持ち出しとなってしまふ。大量購入を考える場合には、購入額と当せん金の受取額の関係に十分注意しておく必要があるといえるだろう。

このようにみていくと、年末ジャンボは、「一攫千金の狙いを中心に据えながら、あわせて当せん金100万円以上の高額当せんも狙いたい」という高額当せんの願いにかなうくじと位置づけられそうだ。

### ◇ ジャンボには、当せん金1万円受け取りの魅力もある

ここで、ややトリッキーなのは、当せん金1万円の5等をどう考えるか、という点だ。

この5等は、昨年、当せん確率が引き下げられた。だが、それでも当せん確率は0.1%となっている。当せん金1万円の受け取りの魅力も、まだまだ捨てたものではない、とすることができる。

年末ジャンボでは、平均的にいうと、くじを885枚買ったなら、1万円以上の賞が1本当せんすることになる。885枚のくじからは、平均的に、6等8本、7等88本の当せん金(5万400円)の当せんも期待できる。1万円以上の賞の当せんと合わせて、6万400円以上の当せん金の受け取りが期待される。

ただし、くじを885枚買うためには、購入代金として26万5500円が必要となるので、やはり平均的には持ち出しとなる。大量購入を考える際には、購入額と当せん金の受取額の関係に注意が必要ということになる。

### ◇ ミニは、昨年復活した当せん金1万円の等級が今年も存置された

つづいて、年末ジャンボミニについて、みてみよう。

ジャンボと違って、ジャンボミニの当せん金の最高額は、1等前後賞合わせて5000万円にとどまる。

## 年末ジャンボミニ

(円)

	当せん金	当せん確率	1枚300円に対する 当せん金の期待値
1等	30,000,000	0.0001%	30
1等の前後賞	10,000,000	0.0002%	20
2等	1,000,000	0.003%	30
3等	10,000	0.1%	10
4等	3,000	1%	30
5等	300	10%	30
合計			150

昨年、1等前後賞合わせて5000万円の当せん確率が引き上げられた。そして、当せん金1万円の3等が新設された。一方、当せん金100万円の2等の当せん確率は引き下げられた。これらを通じて、組み替えが行われ、1等前後賞合わせて5000万円の当せんと3等1万円の当せんにシフトしたことになる。

この結果、10億円の超高額当せんがメインの狙い目であるジャンボとは、対照的なものとなった。実は一昨年、ジャンボミニは、当せん金5万円や1万円の等級をやめて、100万円の当せん金に組み替えられていた。昨年、当せん金1万円の等級が復活し、それが今年も存置された格好となっている。

これにより、当せん金1万円以上の当せん確率は大幅に引き上げられたままととなった。

平均的には、1枚300円のくじを969枚買ったなら、1万円以上の賞が1本当せんする計算になる。ジャンボの、「くじを885枚買ったなら1万円以上の賞が1本当せんする」という話に比べると、購入するくじの枚数はやや多くなる。

969枚のくじからは、4等9本、5等96本の当せん金（5万5800円）の当せんも期待できる。1万円以上の賞の当せんと合わせて、平均的に、6万5800円以上の当せん金の受け取りが期待される。ただし、くじを969枚買うためには29万700円が必要なので、やはり平均的には持ち出しとなる。大量購入を検討する際には、購入額と当せん金の受取額の関係に注意が必要ということになる。

### ◇ それでは、ミニの魅力は？

それでは、年末ジャンボミニの魅力は、一体何なのか？

ずばり、1等前後賞合わせて5000万円の当せん確率だ。5000万円といえば、大変な高額といえる。その当せん確率が、昨年、一昨年のものから2.5倍に引き上げられた。今年もそれが維持されている。

ジャンボミニの1等の当せん確率は0.0001%で、これは、ジャンボの1等の当せん確率(0.000005%)の20倍に相当する。大変な高額の当せん金を受け取れる確率が、かなり高い、ということになる。

年末ジャンボミニは、「1等前後賞合わせて5000万円の高額当せんにチャレンジしたい」という希望に沿ったくじとすることができる。

#### ◇ 高額当せんを細分化して考えてみる — 超高額当せんの金額は労働者の生涯賃金をはるかに上回る

以上をまとめると、今年の年末ジャンボ宝くじには、「一攫千金の狙いを中心に据えながら、あわせて当せん金100万円以上の高額当せんも狙いたい」という年末ジャンボと、「1等前後賞合わせて5000万円の高額当せんにチャレンジしたい」という年末ジャンボミニの、2種類の宝くじが用意されていることになる。

ここで、高額当せんというものを、やや細分化して考えてみよう。

① 1等前後賞合わせて10億円の「超高額当せん」、② 1等前後賞合わせて5000万円の「大変な高額当せん」、③ 1000万円や100万円の「高額当せん」、の3つだ。そうすると、年末ジャンボは①と③、年末ジャンボミニは②を、主に狙うくじと位置づけることができる。そして、どちらの宝くじも、当せん金1万円以上の賞も十分に狙える。

このうち、③は、年収との関係で当せんした場合のうれしさが、なんとなく想像できる。一方、①と②は、どちらも日ごろはまず目にしないような高額であるため、イメージしにくいかもしれない。

そこで、労働者1人が生涯でいくら賃金を得るかを考えてみる。もちろん、ひと口に労働者と言ってもいろいろな人がいて、生涯賃金には幅があるだろう。ここでは、平均的な金額を見てみる。

独立行政法人労働政策研究・研修機構の『ユースフル労働統計 2023』によると、日本では労働者の生涯賃金は、大学卒の男性は約3億2020万円、女性は約2億5370万円。また、高校卒の男性は約2億6020万円、女性は約1億8910万円（いずれも2022年）とされている。これらは、学校を卒業してただちに就職し、60歳で退職するまでフルタイムの正社員を続けて退職金を得て、その後は平均引退年齢までフルタイムの非正社員を続ける、という場合の金額だ。まさに、生涯働きづめに働いた場合のものだが、それでも生涯賃金は平均的には4億円に届かない。

こう見ていくと、①の超高額当せんは、労働者の生涯賃金をはるかに上回るもので、通常はまず受け取ることができないほどの高額と言える。一方、②の大変高額な当せんは、労働者の生涯賃金内の金額と位置づけることができる。

例えば、家を建てたり、マンションを買ったりする場合を考えると、物件にもよるが、②の金額がそれに近いということになるだろう。(ただし、大都市の物件は、1億円を超えるものも多いが…。)

## ◇ 年末ジャンボ 今年はどう狙う?

以上、2種類の宝くじの特徴を細かく見ていった。また、高額当せんというものを超高額当せん、大変な高額当せん、高額当せんの3つに分けて、その意味を考えてみた。それらを踏まえたうえで、それでは、今年の狙い目はなにか? — これには、さまざまな買い方が考えられる。

「年末ジャンボを連番でたった3枚だけ買って、ただひたすらに10億円のてっぺんを目指す」という究極の頂点狙いの買い方は、シンプルで潔く、カッコイイ買い方といえるだろう。

「当せん確率が高められている1等を狙って、年末ジャンボミニを〇〇枚買おう」という買い方は、今回のジャンボミニの特色を熟知した、クレバーな買い方といえるかもしれない。

「今年は、年末ジャンボを◇◇枚、年末ジャンボミニを△△枚買い揃えて、いろいろな高額当せんを狙ってみよう」という買い方は、2つの宝くじからポートフォリオを組成して、その価値を存分に味わう買い方といえるだろう。

くじの買い方は人それぞれだ。これが正解といえるものはない。ただ、このようにいろいろ考えてくじを買うところから、すでに宝くじの楽しさは始まっているといえる。

今年の宝くじの発売期間は12月21日(土)までで、検討のための時間はたっぷりある。

くじを買ったあとは、抽せん日(大晦日)まで、「もし10億円が当たったら…」、「□□万円の当せん金を手に入れたら…」などと夢想して、ドキドキ感やワクワク感を存分に味わう。

そうすることで、慌ただしい年の瀬を楽しく過ごすことができれば、すでに宝くじの効用を十分に引き出すことができたといえるだろう。

(本稿をまとめるにあたり、参照した Web サイト)

「宝くじ公式サイト」(全国都道府県及び全指定都市)

<https://www.takarakuji-official.jp/>

『ユースフル労働統計 2023 ― 労働統計加工指標集―』(独立行政法人労働政策研究・研修機構)

<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/2023/index.html>